

3

Once upon a time, there was a swift Hare who lived in the woods.

One day, he gathered the other woodland animals and announced:

“I’ve never lost a race,
and I bet I can easily beat any of you.
Is there anyone among you
who can challenge me?”



5

“Well, I’ll do it,”

A Tortoise said.

“Hahahah, no way,”

the Hare replied.

“You must be kidding. I can beat you even if I run with my eyes closed!”

“No, my friend. Nobody knows what happens in a race until the last moment. You’d better not be careless.”



むかし むかし、とある もりに、
とても あしの はやい
うさぎが いました。

あるとき うさぎは、もりの どうぶつたちを
あつめて いいました。

「ぼくは かけっこで まけたことが
いちども ないんだ。
きみたちにだって かんたんに かてるさ。
どうだい、だれか ぼくと
しょうぶ してみないかい？」

すると。



「それでは、わたしが やりましょう」

そう いったのは、いっぴきの かめでした。

「あはははは、まさか、じょうだんだろう!?

きみと だったら、めを つぶって

はしったって かてるさ!」

「いいえ、うさぎくん。

しょうぶは さいごまで、

なにが おこるか わかりません。

けっして ゆだんしては いけませんよ」

